予算審査特別委員会

力を合わせ、新たな時代を築き、次代につなぐ福島の実現に向けて!!

令和２年度

7会計予算を含む15件の議案を可決。

一般会計予算37億347万8千円

産業の再生による雇用の創出・次世代を担うリーダー等の育成

◎水産業、水産加工業

問 花田委員　種苗生産施設の統合は、今ある3つの施設を統合するということか？規模と設置場所はどのように考えているか伺う。

答 アワビセンターと昆布の種苗生産施設、ウニセンターの3つを統合しようとしている。生産規模は、現在と同規模（アワビ4万個、昆布種苗糸3万3千m、ウニ放流種苗200万個）を想定しており、建設箇所は現在のアワビセンター敷地を考えている。詳細は今年度の基本構想策定により示すことができる。

現在の種苗施設

問 木村委員　昆布藻場の造成とウニの漁獲増を目的とした水産基盤整備事業の計画額と藻場回復の手法について伺う。

答 令和2年度は白符地区に設置する。区域内に30m四方の囲いブロックを置き、石を入れ、藻場造成を図る。ダイバーを使って種苗を植え付ける手法ではなく、自然に入ってくる昆布種苗の定着を期待する。北海道が事業主体で、令和2年度9千万円の事業費のうち、町は1割（9百万円）の分担金を拠出する。

◎農　業

問 小鹿委員　熊等による被害対策で、ハンター人数の不足や高齢化等による将来体制の不安を聞く。町発信でのハンター募集の可否、将来的な有害鳥獣の増加とハンター不足に対する考え方を伺う。

答 ハンターは激務であり、ハンターの収入だけで生計は難しい。専門的な分野であり、町で募集することは考えていない。しかし、農業被害や町内会要望でも心配する声があることから、希望者がいれば積極的な声掛けを行い、資格取得をしていただき、町のハンターとして委嘱できる体制をとっていきたい。

くくりわなの設置状況

◎林　業

問 藤山委員　森林公園の冬期間の管理体制を伺う。

答 冬期間については、下の駐車場までは除雪車が入れるが、そこから先の道路には除雪車が入っていけず特に管理はしていない。

※質疑・応答は、抜粋・要約しています。
掲載の順番は、第５次総合計画のまちづくり項目の順番です。

◎観光、交流

問 平沼委員　第2青函トンネル構想を実現する会への補助金については総務費へ計上しているが、青函トンネル記念館との関連や運動の方向性、トンネル記念館への展示対応について伺う。

答 予算は総務費の補助金になるが、令和元年度予算で、役場に懸垂幕を掲げ、トンネル記念館オープンに合わせてのぼり50枚を用意した。令和2年度予算では看板の作成・設置を見込み、要望活動は、北海道等との同調が必要で、まだ機が熟していない。

トンネル記念館の展示は、ガラッと衣替えすることはできないが、第2青函トンネル構想などを示していくなど実現する会のご意見をいただきながら、やれることをやっていきたい。

問 杉村委員　岩部のトイレ解体費が計上されているが、岩部クルーズ船の本格的運航には乗り場付近にトイレの設置が必要と考えるが、どうか？

答 岩部のトイレは、昭和51年建設で、老朽化により閉鎖していた。少し離れているが岩部交流センターを利用していただいている。岩部地域活性化基本計画を策定予定であり、相対的な議論の中で考えていきたい。

町民の安心安全な暮らし

◎地域福祉

問 木村委員　社会福祉協議会補助金を、680万円増額計上している。全国の状況を調べると、非営利の役割の一面もあり、町で赤字補填しているところも多く、意識・組織改革が必要と考えるがどうか？

答 社会福祉協議会は、行政を補完して地域福祉を担う役割と、介護保険事業所の二面性を持っている。今回の補助金増は、行政を補完する役割について支援をするもので、ほかに認知症カフェなど町が予算化できる対応もある。今回の提案前に役員の皆さんとお話をさせていただき、協議会が自助努力をしていくことも確認した。

◎土地利用

問 杉村委員　町有財産管理費で、用地購入費が計上されているが購入箇所・目的を伺う。

答 場所は、旧給食センター（解体済み）向かい車庫裏の民有地。将来的にスクールバス車庫等の一体的整備をするために購入する。

豊かな環境と若者等の定住対策・子育て環境の充実

◎自然保護

問 佐藤委員　公害対策費で河川等の水質検査を行っているが、その内容と検査結果の通知・指導状況について伺う。

答 水産加工場周辺の10カ所を年1回、観音橋川と緑川を年2回水質検査している。検査結果については、基準内の数値となっており、加工場等には報告していない。今後、関係課同士が連携を図り通知できるような体制を取りたい。

◎道路網

問 平沼委員　令和元年度は降雪量が極端に少なかったが、業者は諸経費をかけて準備をしてきていると思うが、現時点での取り決めや今後の方向性を伺う。

答 業者は重機の維持費、人件費等の備えをして、除雪の体制を組むので、降雪量が少なければ体制維持ができなくなる。建設協会・建設業協会から最低保証等に関する要望書が提出されている。現在、最低保証の基準はあるが、近隣3町と比べ福島町が一番安い。

除雪対策事業として、2月会議で補正予算を組んだ臨時的対応もあったが、令和2年度に最低保証を見直す予定です。

除雪状況

学び合い、たくましい人を育てる

◎幼児教育、学校教育

問 平沼委員　小中学生のスマホ所有率等のデータ把握と利用

時間に対する指導の考え方を伺う。

答 平成30年度に家庭でスマホゲームの時間を決めるメディア宣言をしている。生活指導協議会がデータを取りまとめ、示されたが、2時間以上が半分以上であり、取り組み強化を考えている。

スマホで情報を仕入れることも必要と考えるが、利用ルールは家庭の中で決めることが大事だと思う。

◎スポーツ

問 **川村委員** 小中学校の町民プール授業は行われているが、大人や授業以外の児童・生徒に対してインストラクターを呼んで定期的に基礎から教えてはどうか？

答 町民プールは、いろいろ活用され、夏休み期間に、函館の講師を招き、ジュニアスイミングスクールを実施している。大人向けにはアクアビクス教室を実施、今後も継続していく。

◎芸術文化、文化財

問 **藤山委員** 伝統芸能の後継者不足が問題だが、小中学生にイベント等で披露させるような効果的な取り組みは、いかがか？

答 例大祭の四ヶ散米舞、松前神楽の八乙女舞には小中高生が参加しているが、学校ぐるみの取り組みには至っていない。

小樽松前神楽保存会では子供たちに神楽体験をさせていると聞いている、学校とも協議し、検討していきたい。

協働のまちづくり・行財政運営の充実

◎広報公聴

問 **溝部議長** 平成9年以来の町勢要覧を期待している。夢を託して挑戦する「第2青函トンネル構想」案の比較紹介などを考えてはどうか。

答 久々の町勢要覧作成となるが、町の姿を表わす冊子であり、今やっていることを知らせることも一つの要素で、貴重な意見と考えている。担当で編集していくが、既成概念にとらわれず、「誰でも見てすぐわかる」「手にとってしっかり判断できる」ものを作っていきたい。

過去に行われた子どもの白符荒馬踊り

◎行政運営

問 **木村委員** 平成30年度に社会人枠で2人採用したが、令和2年度は募集していない。以前「社会人枠を続けてはどうか」との委員会意見の経緯もある。社会人の応募がないならば、募集期間を半年にする、早目に募集する手法があるが考えを伺う。

答 職員は、高卒・大卒採用が基本だ。年齢構成を考慮し、社会人枠の採用で補完対応していく考えだ。

若く退職される方もおり、新卒者対応では難しい部分があり、社会人枠を急遽募集する手法をとる。社会人枠は経験したノウハウの活用が考えられるが、全体の職員数・採用枠などいろいろな条件で、多少濃淡は出る。

◎財政運営

問 **佐藤委員** 令和2年度、滞納整理機構に移管する件数・金額は？令和元年度の結果は？

答 令和2年度は、6件で486万777円。令和元年度結果は、移管額450万9,658円に対し、徴収額が280万8,090円で、徴収率は62・27％とである。

問 **平沼委員** ふるさと応援基金は、令和元年度からポータルサイトを活用し、令和2年度は64％を管理運営費で使う内容だが、費用対効果が問われる。返礼品の調達の確保、見込みについて伺う。

答 令和2年度の歳入予算も令和元年度同様1千万円に設定した。

アワビも返礼品に入れ目標額をクリアしたい。